

第 36 回 CPD 協議会 ECE プログラム委員会幹事会 議事録

1. 日時：平成 28 年 9 月 27（火）15:00-17:00
2. 場所：日本工学会（森戸記念館 第一会議室）
3. 出席者：（以下敬称略）広崎膨太郎、石原直、秋永広幸、渡邊 誠、加藤穂慈、
京谷美代子、田辺朗、但田潔、松村正明、奥津良之（文責）
4. 配付資料
資料 36-1 ECE プログラム委員会名簿（H28. 9. 27 版）
資料 36-2 第 35 回 ECE プログラム幹事会議事録（H28/7/12）
資料 36-3 第 9 回 CPD 運営委員会議事録（H28/9/1）
資料 36-4 平成 28 年度第 2 回 CPD 協議会シンポジウム（案）理事会資料 28-5-05①
資料 36-5 CPD 協議会 HP の第 1 頁 検討資料
資料 36-6 協議会 HP 検討（カテゴリー A）の内容修正案/CPD 運営委員会発
（追加配布資料）
資料 36-7 平成 28 年度 NIMS イブニングセミナー第 3 回 9/23 までの実施済報告書
5. 前回議事録（案）確認
資料 36-2 に基づき奥津幹事長から第 33 回 ECE プログラム委員会拡大幹事会議事録（案）
が紹介され、議事録として承認された。
6. 委員確認
資料 35-1 に基づき委員会・幹事会メンバーの確認がなされた。
7. 各報告
①資料 36-3 第 9 回 CPD 運営委員会議事録（H28/9/1）に基づき、奥津幹事より経過説
明があり情報を共有した。石原副会長から I o T 周辺で N E D O との接触につき、高い評
価を戴くとともに、相手がどこの「部門」かを明示するようアドバイスがあった。（→秋永
委員より「I o T 推進室」との回答いただいた。（後述））
②資料 36-4 平成 28 年度第 2 回 CPD 協議会シンポジウム（案）理事会資料に基づき。
広崎委員長より計画の説明を戴いた。11 月 30 日建築会館にて開催。産官学の立場で意見を
戴き、工学会前会長からエンジニアリングリベラルアーツと教育についてお話を伺う。パネ
ルディスカッションにより 全知見を結集してビジネス創造力について肉付してゆく。
③資料 36-5 CPD 協議会 HP の第 1 頁 検討資料および資料 36-6 協議会 HP 検討
（カテゴリー A）の内容修正案/CPD 運営委員会 について広崎委員長より解説いただいた。
すなわち、●協議会目的の項目順位を変更し、技術者の社会的認知度向上活動を第一順位
に持ってくる。 ●ECE プログラムの説明について木村先生修正案を採用する方向とし、
要は分かりやすくする。（決定は運営委員会） ●協議会会長のメッセージと顔がより強調

するべく構想を進める。●現在は空のCPDプログラムBOXには 各会員学協会からのベストプラクティクスを掲示してゆく。●リンクBOXには 各会員学協会のCPD関連アドレスを一覧として掲示してゆく。 などの具体的方針が明示された。

なお続いて奥津幹事より9月16日(金)に開催されたCPD広報委員会キックオフ(奥津・加藤・木村)での概要が報告された。■HPリンク先を収集すべく、会員学協会の事務局長宛に「CPD関連教育メニューのアドレスを教えてください」との文書を奥津が送付する。■CPDないしECEというKEY WORD をもっと世に広めるべく、広報メディアを各員が探す。(例えば新聞、各学会機関誌、対談記事、net 広告、ラジオ・・・)などの意見が出た。(議事メモは後報)

④資料 36-7 平成 28 年度 NIMS イブニングセミナー第 3 回 9/23 までの実施済報告書に基づき渡邊委員より経過報告があった。必ず一回/一人質問をしなければならないルールであり、積極的に討議が行われている様子を 全員で共有した。進捗は順調である。

⑤秋永委員より、IoT教育についてNEDOと産総研が協同して教育プログラムを作り上げる準備活動について紹介があった。「NEDOーIoT推進室」のKEYマンと話が進んでいる。IoTのすそ野を広げる必要もあり、効果的な教育活動のアイデアはNEDO室の委託事業の意向と丁度マッチングした。少しずつプログラムを膨らませて、2年後を目途にECEプログラムに成長させてゆきたい。応用物理学会との連携可能性も紹介された。なお、広崎委員長から「来年度第1回シンポジウムはNEDO古川理事長に打診中であり、その日程の打合せも含めて ECEプログラムの件も挨拶し援護したい」旨話があった。

教育対象はどなたか?の質問に対して広く募集し受講属性資格を特に限定せず、またIoT技術は広範囲に亘るが、どこに教育焦点を絞るのか?の質問に対して、AIに焦点を絞り、その材料/デバイス/プロセス integration/Architecture を網羅する教育体制としたい。との議論があった。

⑥「エレキハード技術者の育成が急務と考えられる。とくに生産技術力低下は日本国として今や喫緊の課題になった。→(アクション)但田委員、京谷委員、武田委員、石原副会長/アドバイザ、(奥津幹事)でタスクを組んで検討を開始する。産業界で最も懸念されているこの事態を憂慮し、その払拭に向け工学会として第一歩を踏み出してみよう、との幹事会決議をした。(会合日程 9月27日火曜日 13:30~15:00)」との前回合意に従い、会合をもった。(武田委員は別件にて以前からご欠席予定のため4名で会合)

現状のISSUEを各員が披露し、問題意識につき学習を進めた。

スケジュール→カリキュラム構想完成(2017年3月末)→企画・各講師にテキスト作成願う・対象者募集(2017年9月迄)→教育実施6か月(2018年3月末)→FeedBackとPowerUP→ECEへ完成度高める。 次回議論は 11月22日(火曜) 13:30~14:50とする。 それまでに各位エレキ・ハード技術者(10年選手)に必要な講座とは何か?を考えて 積極的にメール審議する。(希望)

次回（第 37 回会合）は

11 月 22 日（於 森戸記念館）~~15:00～17:00~~ 10:00～12:00 を申し合
わせて閉会とした。（次々回は 2017 年 1 月 24 日 15:00～17:00） 以上